

## 感染症の発生について(情報提供)

## 【概要】

市内医療機関から腸管出血性大腸菌(O157)感染症の発生届が当保健所がありました。  
内容につきましては、下記のとおりです。  
これは感染症法第16条に基づく発生動向情報であり、感染予防について呼びかけるものです。

病名	腸管出血性大腸菌(O157)感染症				
年齢及び性別	4歳・男児				
職業	保育園児				
住所	四日市市				
発病年月日	平成29年10月7日				
診断年月日	平成29年10月12日				
【患者発生の経過】					
10月7日	夜間、腹痛、軟便(血便)あり。				
10月8日	腹痛、軟便(1回/日)、血便持続、市内医療機関受診。				
10月9日	腹痛、嘔吐(1~2回/日)、発熱(37.8℃)、下痢(3回/日)、食欲不振の症状持続。				
10月12日	腹痛、下痢(1回/日)、嘔吐(3回/日)、倦怠感等の症状持続、入院となる。 10月8日の検便結果が判明し、腸管出血性大腸菌(O157)感染症と診断。 10月13日現在、症状持続のため入院治療継続中。				
【防疫措置】					
家族・接触者の健康状況調査及び検便の実施					
【四日市市内の腸管出血性大腸菌感染症の発生状況】					
平成29年1月1日～平成29年10月13日現在までの本件含む ( )内は三重県内の発生状況					
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
患者	6 (44)	5 (39)	5 (27)	6 (29)	3 (26)
保菌者	7 (18)	1 (19)	2 (10)	1 (15)	3 (11)
計(感染者)	13 (62)	6 (58)	7 (37)	7 (44)	6 (37)
【自分で出来る予防対策】					
1 予防の3原則					
①加熱(菌を殺す)					
この菌は熱に弱く、75℃、1分間の加熱で死滅します。					
肉の生食は避けてください。特に子どもや高齢者は注意してください。					
ひき肉は、十分に加熱をしましょう。					
焼肉を食べる時は、生肉を取る箸と食べる箸を使い分け、よく焼きましょう。					
井戸水は、煮沸してから飲んでください。					
②迅速・冷却(菌を増やさない)					
調理した食品はすぐに食べましょう。					
③清潔(菌をつけない)					
手指や調理器具は十分に洗いましょう					
2 暴飲暴食は避け、睡眠を十分にとるなど体力・体調を保ってください。					
3 腹痛・下痢等の症状がでた場合、すぐに医師の診察を受けてください。					

## 連絡先

四日市市保健所 保健予防課(059-352-0594、059-352-0595)

担当： 久志本、松浦